



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。



この症状はどんな病気？～菌核病・白絹病～

【菌核病(*Sclerotinia sclerotiorum*)】



写真：トマト

地際部の茎あるいは葉の先端部に発生する。施設栽培では、主に、侵された葉があめ色に変色し、やがてこの部分に**白色・綿毛状の菌糸**を生じる。症状が進むと茎葉が萎れ、枯死し、罹病茎の外側および内側に**黒いネズミの糞状の菌核**を形成する。

【白絹病(*Sclerotium rolfsii*)】



地際の茎葉と根が侵され、**水浸状に変色・腐敗枯死**する。腐敗は内部まで進展する。罹病部や地表面に**光沢のある白色菌糸**が豊富に生じ、後に、表面が平滑で直径0.8～2.3mmで**種子状、初め白色で後に褐色に変色する菌核**が無数に形成される。



防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません！ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください！



時期	IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	使用量・希釈倍数	使用時期	回数
定植時	P2	白さび病	inochioキクツチャ粒剤	○	—	6～9kg/10a (作条土壌混和)	定植時	1回
生育初期	M03	白さび病	アントラコール顆粒水和剤	○	—	1,000～2,000倍	発病前～ 発病初期	6回
	23	アザミウマ類・アブラムシ類 ハダニ類	inochio セイレーンフロアブル	—	—	2,000倍	発生初期	3回
消灯時	11	褐斑病・黒斑病 白さび病	メジャーフロアブル	○	○	2,000倍	発病初期	3回
	20D	ナミハダニ	マイトコーネフロアブル	—	—	1,000倍	開花前	1回
発蕾時	21A 39	白さび病・アブラムシ類 アザミウマ類・ハダニ類	ハチハチ乳剤	○	—	1,000倍	発病初期 発生初期	4回
	25A	ハダニ類	スターマイトフロアブル	—	—	2,000倍	発生初期	1回
破蕾期	3	うどんこ病・白さび病	アンビルフロアブル	○	○	1,000倍	発病初期	7回
	33	ハダニ類	ダニオーテフロアブル※	—	—	2,000倍	発生初期	2回



地域の防除事例を基に作成しています(輪菊栽培)。品種、栽培条件によっては薬害が発生する場合があります。さらに、展着剤・葉面散布剤等を加用する場合もご注意ください。

※花き類・観葉植物登録

海藻サンバ

イノチオの新しいバイオステミラント！
育苗期の発根促進剤

- ▶ コリンによる**光合成促進**と**発根促進**
- ▶ 海藻エキスによる**発根促進**
- ▶ 転流を促進

挿し芽前どぶ漬け：1,000倍液に浸漬処理
葉面散布：1,000～2,000倍液を散布



肥料登録番号
生第101491号

展着剤

ブレイクスルー

冬の乾きにくい時期におすすめ！

- ◎ 散布後の薬剤の乾きが早い！
展着剤の中でも特に速乾性の高い薬剤です
- ◎ 濡れ性に優れ、薬剤を瞬時に広げます
- ◎ 汚れ軽減効果に優れています

5,000～10,000倍 添加

